

函館線 森・石倉間の列車脱線について (緊急点検結果と今後の対応)

2024年12月20日



北海道旅客鉄道株式会社
HOKKAIDO RAILWAY COMPANY

1. 類似条件踏切の緊急点検結果について

- 鷺ノ木道路踏切の類似条件下の39踏切（44箇所）について、12月10日までに超音波探傷器による点検を実施し、異常がないことを確認

- 各線区での点検の実施状況

類似条件内容	線名・区間	踏切数（箇所数）		点検結果
・海沿い ・レール経年30年以上 ・曲線 ・レール探傷車の再検査箇所 ・ <u>貨物走行線区</u>	函館線 鹿部～長万部	7 踏切（10箇所）	24踏切（29箇所）	11/18点検終了・異常なし
	室蘭線 長万部～苫小牧	12踏切（14箇所）		11/22点検終了・異常なし
	根室線 浦幌～新富士	5 踏切（5 箇所）		11/21点検終了・異常なし
・海沿い ・レール経年30年以上 ・曲線 ・レール探傷車の再検査箇所	函館線 余市～銭函	3 踏切（3 箇所）	15踏切（15箇所）	11/28点検終了・異常なし
	日高線 苫小牧～鵠川	1 踏切（1 箇所）		11/29点検終了・異常なし
	根室線 釧路～根室	8 踏切（8 箇所）		12/10点検終了・異常なし
	釧網線 知床斜里～網走	3 踏切（3 箇所）		12/4点検終了・異常なし

2. 今後の点検について

■ 点検実施箇所拡大

- ・緊急点検は、「海沿い」「レールの経年」「曲線」「貨物線区」などの鷲ノ木道路踏切と類似する条件を設定し点検したが、著しいレール腹部の腐食は見当たらず、異常なく終了（39踏切（44箇所））
 - ・今後は、「海沿い」「レールの経年」「曲線」「貨物線区」を条件から外し、「レールの腐食」のみに着目し、踏切内部でレール底部腐食の進行度合いが比較的高い箇所を既存の検査データから抽出し、以下の条件に該当する221踏切（255箇所）を対象
（条件）
 - ・過去4年間にレール探傷車にて底部腐食を検出した箇所
 - ・超音波探傷器による手探傷の結果、底部腐食が3mm以上と判定された箇所
 - ・ただし、これまでの緊急点検により確認が完了している箇所、既にレール交換実施済みの箇所※は除くこととし、124踏切（140箇所）の点検を実施
- ※レール探傷車による検査（線区に応じて1～4年ごと）において底部腐食を検出し、その後の超音波探傷器による手探傷の結果、レール交換が必要と判定され、交換を実施した箇所等

■ 点検方法（変更なし）

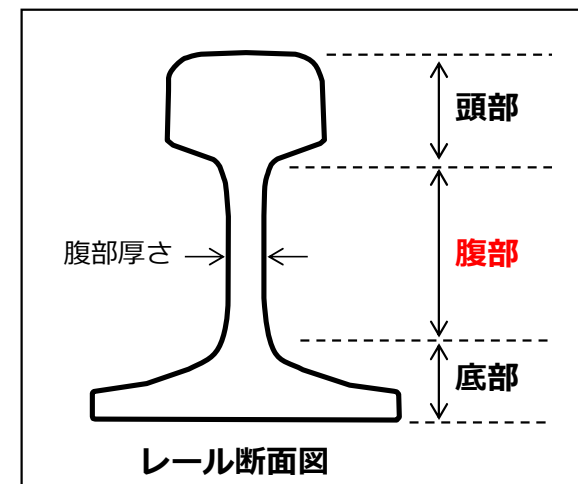
- ・超音波探傷器によるレール探傷を行い、エコーの途切れの有無を確認
- ・必要により、踏切敷板を撤去して、目視によりレールの腐食状態を確認

3. 事故の再発防止について

今後は、運輸安全委員会による原因究明に引き続き協力するとともに、同種事故の再発防止に向けて、（公財）鉄道総合技術研究所の指導を受けながら設備管理手法等の改善に取り組んでいく。
現時点では、以下の取り組みを検討している。

① レール腹部の腐食に着目した設備管理手法の構築 【管理】

- ・ 超音波探傷器により超音波エコーの跳ね返り状態を確認したうえで、必要により踏切敷板の撤去を伴う目視確認の実施
- ・ 要注意踏切の指定



② 腐食レールに対する超音波探傷器の検査手法に関する教育体制の充実 【教育】

- ・ レール腹部の腐食に関する教育カリキュラムの追加
- ・ 教育及びフォロー体制の整備